

令和4年度 一本松中学校学校評価(学年末)

愛南町重点目標

評価規準 A：目標を達成 B：6割以上肯定 C：4割以上肯定 D：4割未満 サンプル数 教職員(8人) 生徒(41人) 保護者(34人) 地域住民(24人)

重点目標	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定	学校による考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)				
					4	3	2	1	
1 地域とともにある学校づくり	(1) 地域を生かした教育活動の充実	地域人材や地域の教育的資源等を生かした教育活動の充実に取り組む。 【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域住民の8割が肯定	学年末評価 A	◇教職員・生徒・保護者・地域住民の8割が肯定しているため、A評価である。今年度は、「レジェンド交流会」を開催できたことが良好な評価につながったと感じている。また、職場体験学習においても地域の多大な協力を得ることができた。レジェンド交流会と職場体験学習においては、学校運営協議会で人材や事業所について検討し、地域とのつながりを広げていったことが大きな成果となった。 ◆今後も学校運営協議会の協力を得て、地域人材の活用に努める。各教科の学習においても、感染症対策を行いながら、多様な外部人材を活用した教育を推進していく。	教職員アンケート	100	0	0	0
					生徒アンケート	54	42	4	0
					保護者アンケート	68	26	6	0
					地域住民アンケート	75	21	4	0
	(2) 地域の思いを反映させた学校運営	地域の思いを反映させて、学校行事の計画・実施に取り組む。 【目標値】 教職員の8割が肯定	学年末評価 A	◇教職員の100%が肯定しているため、A評価である。運動会や文化祭など、一部制限はかけての実施だったが、保護者や地域の方に学校や生徒の様子を見ていただくことができた。 ◆学校運営協議会や学校評価の地域の意見を真摯に受け止め、保護者や地域の方に喜んでいただける学校行事を開催していく。	教職員アンケート	87	13	0	0
	(3) 学校評価を踏まえた教育活動の充実・改善	学校評価の結果を踏まえて、教育活動の充実・改善に努める。 【目標値】 教職員・保護者・地域住民の8割が肯定	学年末評価 A	◇教職員の100%と保護者・地域住民の9割以上が肯定しているため、A評価である。昨年度まで評価が低かった図書館の活用についても、今年度はA評価になった。学校評価を意識して、担当者を中心に全教職員で取り組んだ成果である。今年度は、教育活動全般において教職員の協力体制が充実していると感じる。 ◆今後も家庭や地域と連携して教育活動を進めていくとともに、情報の発信と受信に努める。	教職員アンケート	87	13	0	0
					保護者アンケート	44	50	6	0
					地域住民アンケート	58	33	9	0
	(4) 情報の積極的な発信・受信	学校の取組や生徒の様子を、積極的に発信したり受信したりする。 【目標値】 教職員・保護者・地域住民の8割が肯定	学年末評価 A	◇教職員の100%と保護者・地域住民の9割以上が肯定しているため、A評価である。ホームページや各種通信により、積極的な情報発信ができた。また、小中合同開催の学校行事や学校運営協議会を通して、保護者や地域の方々の幅広い意見を聞くことができた。 ◆今後も取組を継続していくことと、地域に積極的に外向き情報収集に努めていく。	教職員アンケート	62	38	0	0
					保護者アンケート	44	50	6	0
					地域住民アンケート	79	17	4	0
学校運営協議会の所見	学年末評価	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍でこれだけの高評価を得ているのはよいことだと思う。 ○ウィズコロナで学校へ行く機会も増え始め、不安も減ってきたように感じる。 ○レジェンド交流会で感銘を受けて帰ってきた子供が、いつもより話をしてくれた。 ○コロナ禍で大変な状況の中、一本松地域だけで職場体験を受け入れていただけたことは大変ありがたい。子供たちも地域のことを知ることができてよかったと思う。 ●職場体験学習について、校区内だけでなく町内に1か所しかない職場(警察署、消防署)にも行ってみたい。 ●もっと多くの地域の方が参加できる行事や交流会の場をつくってほしい。 ●地域人材や教育資源は、まだまだ活用できると思われる。 	学校の対応	学年末評価	一本松地域の事業所や一本松出身の講師から、子供たちは多くのことを学ぶことができた。学校運営協議会で、職場や地域人材を紹介していただいたことが大きな成果となって現れている。今後も地域と連携し、一本松プライドを持った生徒を育てていく。 ウィズコロナで徐々に学校も開けてきたため、感染症対策や会場設営を工夫しながら行事や講演会を地域へ開いていく。				